

# 文民統制の堅持を

航空自衛隊のトップだった田母神俊雄・前航空幕僚長は、「わが国が侵略国家だったなどというのはまさにぬれぎぬ」などとする論文を公表し、政府から解任されました。

戦後50年の95年、当時の村山首相（社会党）は過去の植民地支配と侵略への反省とお詫びを表明する談話を発表し、これは政府見解となりました。田母神氏の見解はこの「村山談話」を否定するものです。こうした考え方の持ち主が自衛隊の要職を占めていては、日本は本当に戦争を反省しているのかと、近隣諸国から疑いの目を向けられてしまいます。

また田母神氏は、自国が攻められていないにもかかわらず同盟関係にある他国への攻撃を自国への攻撃と見なして反撃する権利（集団的自衛権）の行使を認めるべきだと主張し、これを憲法違反だとする政府のこれまでの立場を批判してきました。平和憲法を真つ向から否定し、自衛隊をどんどん海外に出して、米国の戦争への加勢をもっとおっぴらに進めようという大変危険な考えです。

## 憲法と村山談話を否定 田母神論文問題



日本には戦前、軍部の専横と暴走を止められず、破局への道を突き進んでしまったという苦しい歴史があります。「文民統制」の原則は、これを教訓に掲げられたものです。自衛隊が憲法も政治も無視して勝手な行動をとることを許さないためには、今回の問題の全容解明をはじめとして、何よりも「国権の最高機関」である国会が、自衛隊をしつかり監視し、コントロールしなければなりません。

「軍部の暴走」を許して戦前の過ち繰り返すな

# 社民党